

受注企業動向調査結果

-2014. 2-

- 調査時点 平成26年1月調査（平成25年12月末時点）
- 対象企業 150社
- 調査時期 4半期毎（3、6、9、12月末時点）
- 回答企業 108社（回答率：72.0%）

<業種内訳>

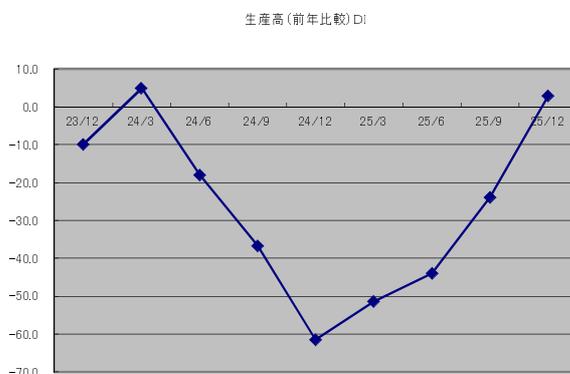
一般機械器具	24社
金属	24社
プラスチック	8社
精密機器	10社
縫製	7社
鉄鋼・非鉄	9社
電気機器	19社
輸送用機器	7社
計	108社

D I (Diffusion Index)とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値です。

生産高（対前年同月比）D I

4期連続の改善でプラス値に

【概況】
生産高D Iは2.8となり、前回の▲24.0から26.8ポイント増と改善した。
4期連続の改善の動きが見られ、D I値も平成24年3月期以来のプラス値となった。輸出関連企業の好調に加え、消費税増税前の駆け込み需要が広がった影響とみられる。

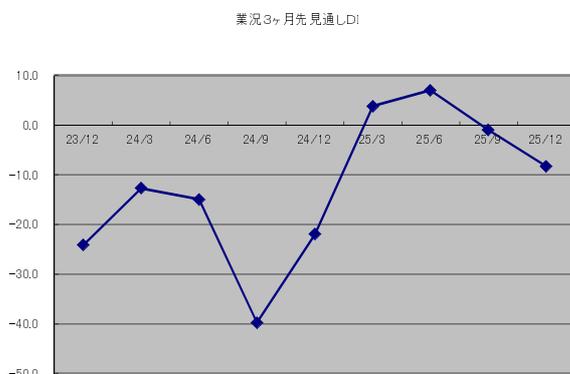


	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	25/12
生産高(対前年同月比)DI	▲ 9.9	4.9	▲ 18.0	▲ 36.7	▲ 61.5	▲ 51.4	▲ 44.0	▲ 24.0	2.8

3ヶ月先業況見通しD I

2期連続で悪化

【概況】
業況3ヶ月先見通しD Iは▲8.3となり、前回の▲1.0から7.3ポイント減でわずかに悪化した。
4月からの消費税増税による消費の落ち込みを懸念する声が多く聞かれた。



	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	25/12
業況3ヶ月先見通しDI	▲ 24.2	▲ 12.7	▲ 15.0	▲ 39.8	▲ 22.0	3.8	7.0	▲ 1.0	▲ 8.3

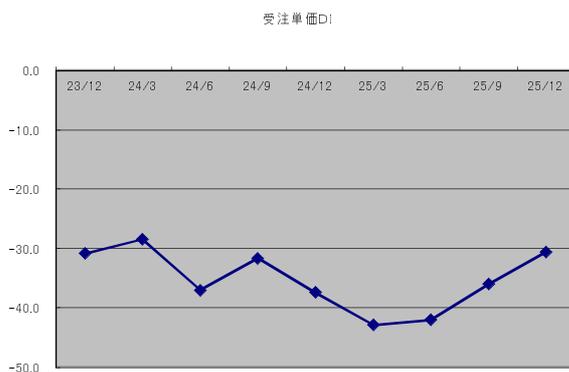
受注単価D I

3期連続で改善するも依然として低水準

【概況】

受注単価D Iは▲30.6となり、前回の▲36.0から5.4ポイント増とわずかに改善した。

3期連続で改善したものの、この2年間低調に推移しており、現状、根本的な改善の兆しは感じられず、今後も受注単価は厳しい状況が続くとみられる。



	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	25/12
受注単価D I	▲30.8	▲28.4	▲37.0	▲31.6	▲37.4	▲42.9	▲42.0	▲36.0	▲30.6

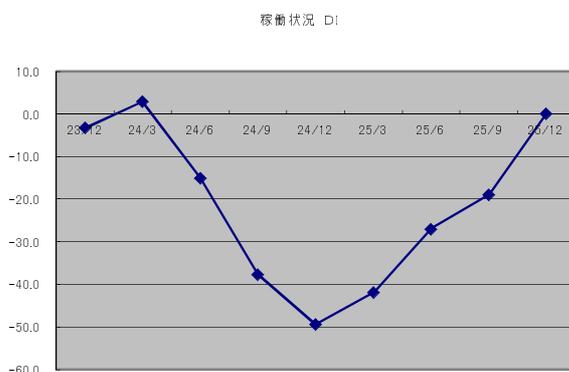
稼働状況D I

生産高D Iに同調し、4期連続の改善

【概況】

稼働状況D Iは0.0となり、前回の▲19.0から19.0ポイント増と改善した。

生産高D Iの改善に合わせ、4期連続で改善し、平成24年3月期以来7期ぶりにマイナス値を抜け出した。



	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	25/12
稼働状況D I	▲3.3	2.9	▲15.0	▲37.8	▲49.5	▲41.9	▲27.0	▲19.0	0.0

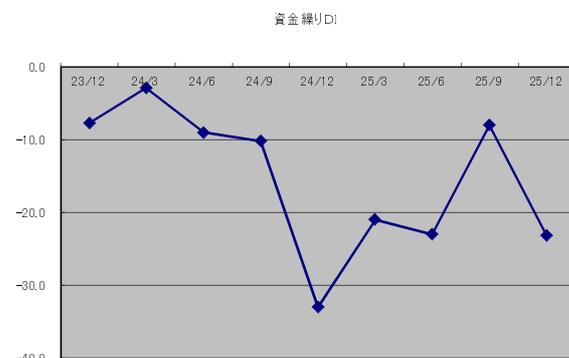
資金繰りD I

円安によるコスト増の影響か

【概況】

資金繰りD Iは▲23.1となり、前回の▲8.0から15.1ポイント減と悪化した。

電気料金の値上げや円安の影響で原材料等の価格が高騰し、生産コストが上昇しているが、上昇分を販売価格に転嫁できず採算が悪化しているとみられる。



	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3	25/6	25/9	25/12
資金繰りD I	▲7.7	▲2.9	▲9.0	▲10.2	▲33.0	▲21.0	▲23.0	▲8.0	▲23.1